

HSK

☆いちばんぼし

昭和48年1月13日ゆう種郵便物認可  
 昭和49年4月10日発行(毎月10日発行)  
 HSK通巻第23号  
 全国膠原病友の会北海道支部事務局

久しぶりに土の香が楽しめる季節  
 がやってきました。お元気ですか。

会員訪問記



私達を誘うかのように暖な日曜日。千歳の病院へAさんとAさんとを訪ねました。Sさんは80キロもあった体重がベッドの上で58キロになってしまったと言いながらも回復への気力は並々ならぬものが感じられました。議会のお仕事をなさっておられると聞き、こわごわ伺ったのですが予想に反し大変気さくな方でした。「早く元気になってがんばりたい」「議会へ出向く時にはお伴します」と私達にとっては頼もしい限りです。今日もSさんは「こんな病気に負けてなるか」と病院で歩く練習をなさっていることでしょう。難病で苦しむ患者がいなくなる日のために一日も早く元気になられて活躍なさって下さい。

若さがはちきれそうなAさん、退院間近というところで風邪をひき、また居すわることになったとションボリ。でも、そのわりにはよく大きな口をあけて笑う方です。いつもは「ホホ…」と笑う私達もついつうられて笑いころげてしまいました。身体中からあふれる若さは「早く退院したい」「例会にも行きたい」といつときもじっとしておれない様子。

そういう私も入院中は、毎日のように退院のことばかり  
 言ってお医者様を困らせたものでした。「でも耐えがたき  
 を耐え、お医者様のおっしゃることをよく聞いて長く明る  
 い将来のために充分養生なさい」と胸をはって言えるマジメ  
 患者のみなさん、どうぞ彼女に良きアドバイスをお願い致し  
 ます。(T記)

その帰り、恵庭のNさん宅におじゃましました。昨年とれたトウ  
 モロコシがとってもおいしくそのことばかりが思い出されて  
 あたのことはすっかり忘れてしまいました。(秋のうちにトウモロコシ  
 をゆで、バラバラにして干すか、冷凍にしてとっておくのだそうです。みなさ  
 んもおためし下さい。大通公園のものとは比べものにならないおいしさです)  
 帰りはNさんがさっそうと運転される車でバス停まで送っていただ  
 きました。本当にありがとうございます。

暖くなるとお仕事開始、くれぐれも身体に  
 お気をつけ下さい。(T記)



寄  
付  
御  
礼

高橋 裕子 さん 1,000 円

北川 亀吉 さん 6,000 円

神子島 十雄 さん 10,000 円

ありがとうございました

なお、これを郵送する封筒  
 も御寄付いただきました。



## 難病連ニュース

4月14日、理事会が開かれ、今年度の役員、事業計画などが決められました。一部お知らせします。

- ① 常任理事として三森さん、事務局員として谷口さんが入ることになりました。また、医療・生活相談員として下記の方が登録されましたのでどしどし連絡下さい。手さぐりの中から一緒に考え合ってゆきましよう。

札幌市豊平区

谷口啓子

長谷川道子

なお、直接友の会事務局へ連絡下さっても結構です。

## ② 事業計画

5月 難病相談センター開設

なんれん文庫開始

6月 第2回道難病連大会 (発言や訴えのある方は申し出て下さい)

7月 第2回集団無料検診(札幌)

未定 チャリティバザー (手作りのもの大歓迎です。みなさん、それぞれに考えておいてください。)



会員からの便り

口いらい、おさまぎなから感を感じられず、おかげ様で元気で生活しております。先日、自分が足を運び丹野さんのお宅へお邪魔させていただきました。こういう働きかけの中で不安やイライラ、楽しみ苦しみも増えたり減ったり、病気を致しましてから「一人で生きているのではない」という助けられているという意識がはっきりしてきました。元気な時には考えてもみなかった人生のテーマなので、おかしくもあり、少しは人間くさくなったのかと感じたりしております。現在の私は健康な人とほとんど変わりありません。心も体も。苦しんだベッドの上での生活の後、やっとつかんだ今日ですから口に出して言いがたいありがたさやうれしさがあります。夕方、おみそ汁を作って主人の帰りを待っている自分に、こうして今日も主人と夕食を共にできるうれしさで、台所でついホロリとひとつぶ流れるものがあります。

4月から2年生になります長男は元気

そのもの。子供の成長についてゆけ

ない両親に「頭を使いなさい」と大人びたことを言いハッパをかけるオマセ坊主



です。(一甲略一) 釧路の公民館で16日~20日まで色紙、絵展があります。私は3点出品しました。題は「コマイ」「柿」「カレイ」。下手ですが一歩ずつ成長していると自負しております。絵を習うのは心の栄養です。何かしていると心が安まります。まして好きなことですから……。 (一後略一) <釧路市 Aさんより>

ようやく待ちに待った春の訪れ。それにしても今年は戻に  
 じらされました。私は2ヶ月程前、かかりつけの先生から緩解期  
 に入っていると言われ、おどるように大喜び致しました。その瞬  
 間、私ひとりがかんなに元気になってよいものかどうかとまどう  
 と同時に、やはり「不治の病」というレッテルがはがれつつある  
 という事実は、どう考えても喜び以外のものではありませんで  
 した。「膠原病」と診断されたのは2年前ですが、冬の朝の洗面  
 の時に蒼白に変る指先に恐れおののいた高校生  
 の頃から考えると、なんともう10年にもなっ  
 ているのです。私が病床の中でいち番つらく  
 悲しく感じたのは、高熱や痛みよりも、こんな  
 自分が果して生きている<価値><意味>か  
 あるのかと自分に向って問うた時です。(一中略一)その頃私は  
 重度身障者の雑誌『羊の声』を知りました。

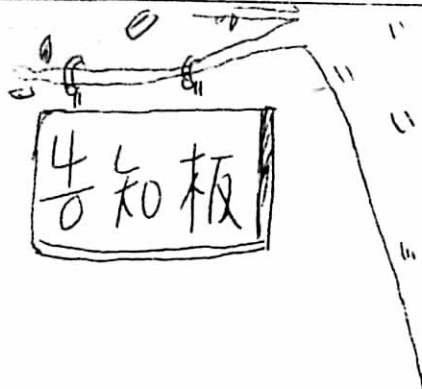


「足で地面を歩き、手で物をつかむことのできるのか人間だと  
 するなら、私たちは人間ではありません。」

しかし、自分の生きる意味を見出そうとして少しでも努力するの  
 が人間だとすれば、私達はまさしく人間です。」

この言葉は私の中にかろうじて残されていた小さな希望の光を  
 再び燃え上らせてくれました。私は今、普通の人と変わらない生  
 活を送り、一年前の自分がウソのようです。この病も数年前から  
 比べると研究も進んできていますし決して諦めることはありません。  
 どうか希望を持って治療に専念して下さい。

<札幌市・Mさんより>



- 〇 芳賀さん、とてもお元気で団地内の日本歴史の学習会に意欲を燃やしておられます。
- 〇 なんれん付録のアンケート、御協力おねがいします。早めに出しましょう。
- 〇 支部会費(月 50円)が12名の方からしか届いておりません。財政がピンチです。

〇 例会は5月12日(日)、6月は難症の大会にかえさせていただきます。御家族の方もたくさん参加して下さい。医師や行政関係の方々からいろいろなお話を伺えるチャンスです。

〇 新入会員御紹介

1. 清美耶子さん
2. 鈴木助雄さん

入院先・千歳市東雲町1丁目 市立病院  
以前より賛助会員としていろいろ助言頂いていましたが今回正式に入会されました。

- 〇 佐竹江津子さんが退会致しました。
- 〇 遠藤カッエさん、引越されて住所不明となりました。御存知の方がいましたら連絡下さい。

# 住所変更

次の方々の住所が変りました。  
新しい住所をお知らせ致します。  
(敬称略)

- 1. 安部 淳子
- 2. 原田 佳代子
- 3. 小谷 裕美子
  
- 4. 中田 ミヨ
  
- 5. 丹野 升
- 6. 関口 朝子
  
- 7. 渡辺 真由美
- 8. 斉藤 幸子

難病相談センター事務所が決りました。

北1条西8丁目 <sup>しま</sup>足田ビル2階  
市立病院の南向いです。

5月の中旬には開設の予定。  
みんなで気軽に立寄りましょう。

道立アフターケアでは全寮制で、社会復帰に必要な指導を1年間にわたって行っています。膠原病患者は費用が無料になりますのでどんどん利用しましょう。

指導内容 ①健康の管理 ②職業の訓練 ③生活の指導  
職業訓練では 経理事務科、孔版タイプ、ラジオ・テレビ科、  
洋裁科、理容科、美容科 に分れています。

詳しくは、友の会事務局までお問い合わせ下さい。

編集人 全国膠原病友の会北海道支部  
札幌市南区  
三森礼子

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会  
札幌市東区北10条東8丁目2番地  
安藤健二

昭和48年1月13日才3種郵便物認可HK8通巻才23号

昭和49年4月10日発行(毎月1回10日発行) 1部50円